

『眼鏡』 作：ポチ子

『眼鏡』 作：ポチ子

眼鏡を通さずに見る世界が、

どんな風だったか忘れてしまった。

自分の瞳で、

ぼやけずに見れていたなんて、

信じれないな。

ガラス越しの世界は、

小さく、少し歪んでいる。

そこにある世界は同じはずなのに、

違うような気がした。

色も、形も、大きさも、

今見えているモノが本物か分からない。

ガラスが見せる、

幻想かもしれぬ。

恐ろしくなって、

眼鏡をはずしても、

私の瞳が映す本物の世界は、

酷くぼやけて歪んでいた。